

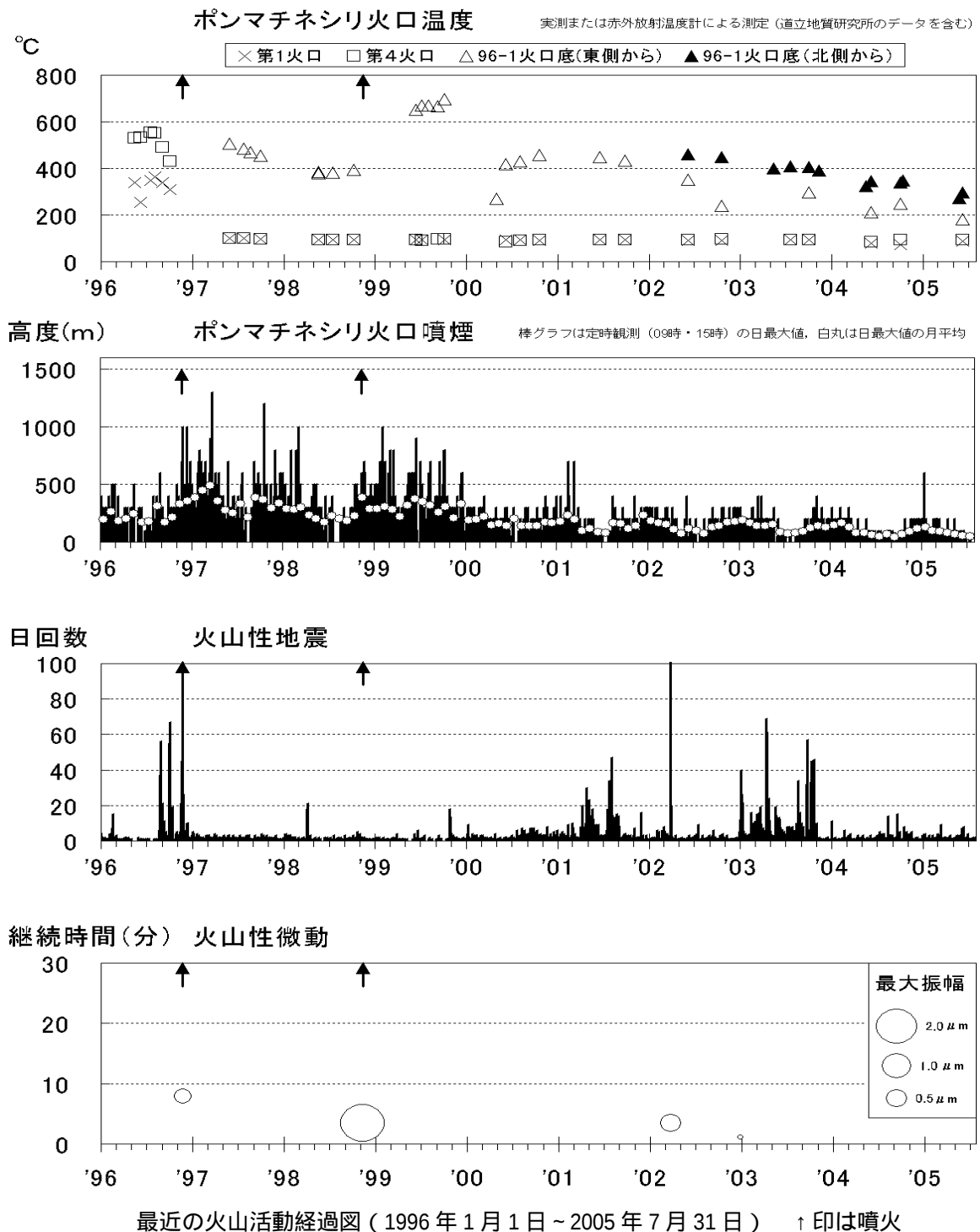
雌阿寒岳

1 概況

地震は少ない状態で経過しており、火山活動は比較的静穏な状態となっています。

2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間（6 月）と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。

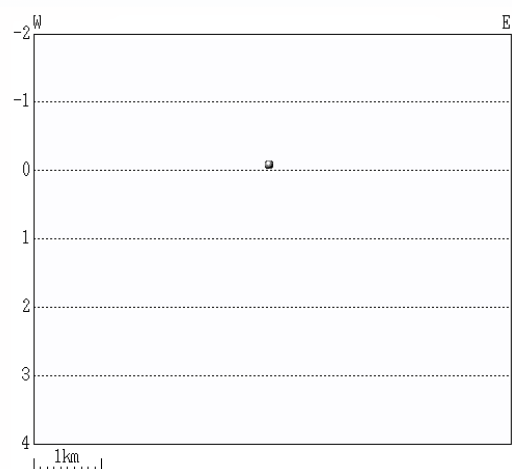
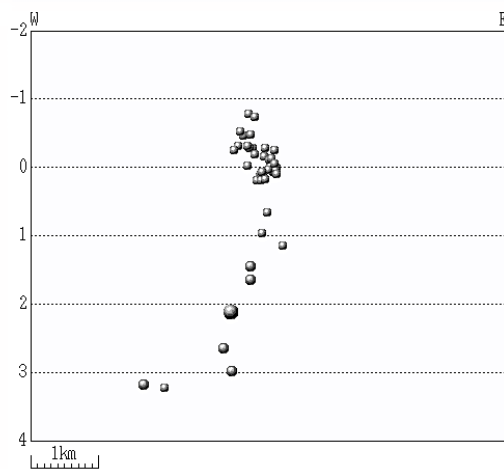
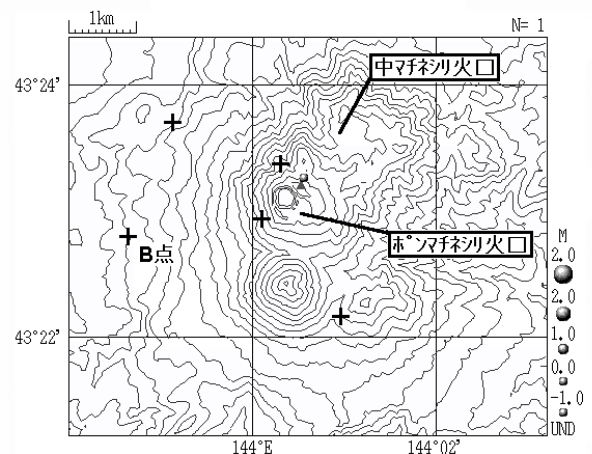
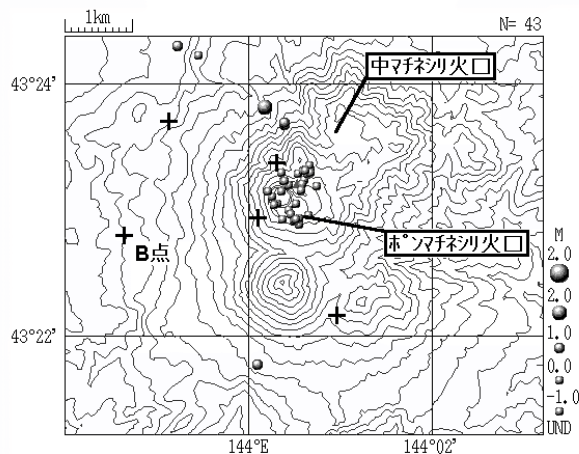


3 地震および微動の発生状況

ポンマチネシリ火口を震源とする地震は 1 日あたり 0～2 回と少なく、静穏に経過しました。
火山性微動は 2003 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（B 点）

2004～2005 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	52	42	40	28	9	26	19	32	20	20	40	14
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



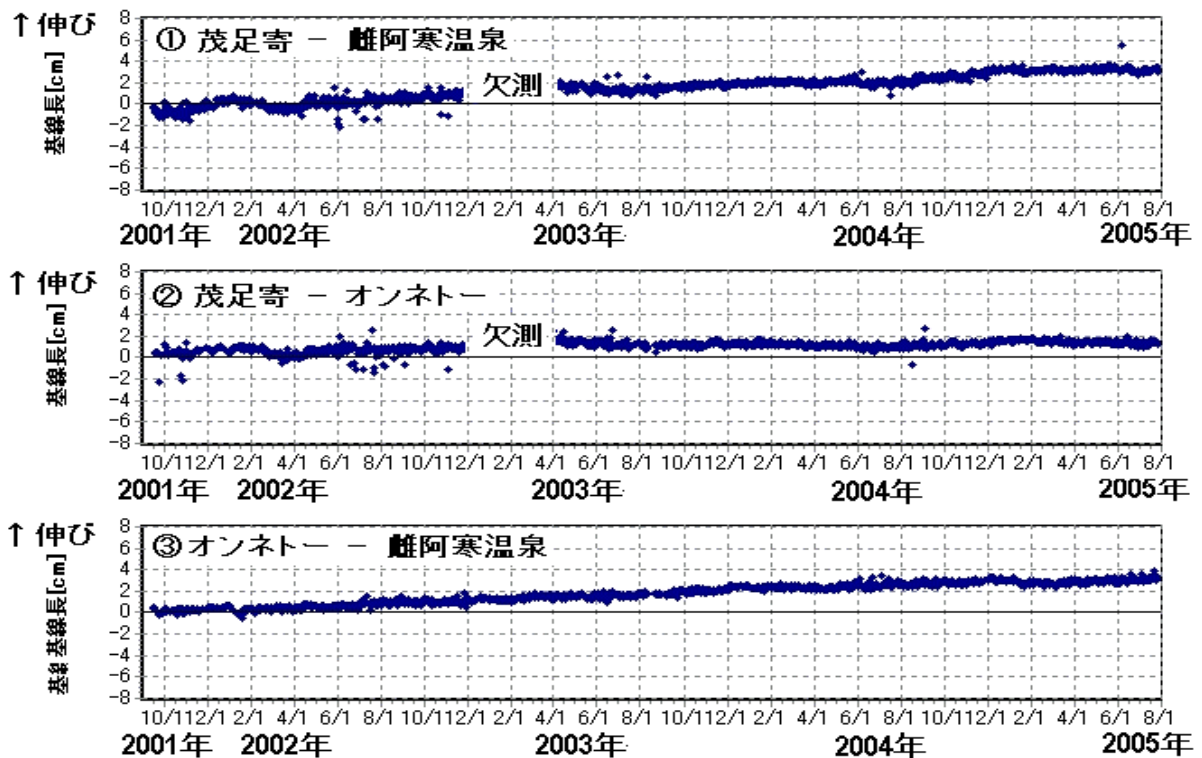
雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

左図は前期間までの約 9 ヶ月間（2004 年 10 月 5 日～2005 年 6 月 30 日）に求まった震源を示しています。震源はポンマチネシリ火口直下の海面付近に分布しています。このほか北西麓のやや深いところ（海面下約 3km）にも分布が見られます。

今期間（2005 年 7 月 1 日～31 日）の震源は、ポンマチネシリ火口縁北東側の海面付近に求まっています（右図）。

4 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、わずかな伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



基線長変化（2001年9月19日～2005年7月31日）

